

技術者の能力開発と技術普及（イラク復興支援枠組みの中で）

イラクはチグリス、ユーフラテス川の豊富な水資源を利用し、世界最初に集約的な灌漑農法がおこったと言われる農業の盛んな国である。しかし、かつて灌漑農業先進国であったイラクでは近年において両大河の上流部に位置するトルコ、シリアでの新ダム建設等の取水により多くの水資源が利用されるようになったことから流入量の減少、施設の老朽化による灌漑排水機能低下、また不適切な水資源管理による利用可能水量の低下などの問題が発生している。このような問題の解決を支援するため、日本国はイラクの戦後復興支援の一環として、JICAを通して灌漑農地における水の有効利用及び農作物生産高の向上を図るための水管理技術、水利組合の設立、技術普及に必要な技術協力の支援を実施しており、現在その活動に参加している¹。

研修に参加したイラク人技術者は中央、地方の若手中堅技術者が主で、その分野は栽培、土壌、普及、灌漑・排水技術などであり、今後のイラク灌漑農業の中核となりえる技術者集団と言えよう。今回の業務では研修員の灌漑農業関連の能力開発を主な目的とし実施された。灌漑条件下での栽培技術、施設運用、水利組織論などを習得する講義・実習・見学を実施するとともに、イラク国内での灌漑プロジェクトを想定し、その実施に向けた情報収集を行うとともに、不足情報についてはさらに調査、収集する指示がイラク人研修者にだされた。

イラク人研修員は非常に意欲的に研修に取り組んだ。講義では必ず質問があり、また視察旅行中もノートへの記入、写真撮影、質問、今後の研修希望などが多く出されるなど、できるだけ多くの情報を吸収しようという姿勢を強く感じた。一方で、イラク国内に立ち入れない状況にあるなか、今回のようなイラク周辺国で遠隔操作的に行われるイラク国内向けプロジェクトの実施具体化の唯一の情報源は研修員からの資料と知識で、自分自身が現地に立って「見られない」、「聞けない」、「感じられない」というもどかしさを感じる。

旧政権崩壊後、多くの技術者が国外へ流出していると聞く。イラク国内の治安の混乱も続いていた。研修員は自国に残る家族の安否をいつも電話で確認しながらの研修参加である。このような彼らと生活を共にすると「研修に参加する」ことだけでも大変な努力と決断を持って成されていることに気づく。参加者が 21 人という限られた人数の中での交流ではあったが、多くのイラク人の仲間を得たような気がする。本調査では灌漑農業に係る一連の研修を通じた能力開発が実施される予定であるが、得られた能力が研修員個人の技術として蓄積されるのみでなく、他の技術者や地域農民へ還元されることを祈る。早くイラク国内での支援が実現されることを期待したい。そしてイラクは行ってみたい国の一つになった。（2006 年 7 月、財津）



水利組合での聞き取り



研修講義風景



研修員と視察旅行で

¹：現在、イラクへの入国が制限されていることから、灌漑農業の能力開発は農業技術者をヨルダンに招聘し、ヨルダン及び周辺国の技術リソースを活用して行われている。